

2012年日本語教育国際研究大会パネルセッション 2012.8.19

日本語教育における 会話データ分析の 社会的貢献の可能性を考える —研究の時代的変遷の調査をもとに—

中井陽子 (司会:東京外国語大学)
大場美和子(広島女学院大学)
寅丸真澄 (早稲田大学大学院生)
熊谷智子 (東京女子大学)
宮崎七湖 (早稲田大学)



本パネルの進行

第1部 16:00-17:15 (75分間)

| | | | |
|------------------|------------|------|------|
| I. 本パネルの背景と目的 | 中井 | 10分間 | |
| II. 調査報告 | ①研究論文 | 大場 | 15分間 |
| | ②実践研究論文 | 寅丸 | 15分間 |
| | ③国研の話し言葉研究 | 熊谷 | 15分間 |
| | ④接触場面研究 | 宮崎 | 15分間 |
| III. 調査報告のまとめと考察 | 中井 | 5分間 | |

第2部 17:20-18:00(40分間) 休憩(5分間)

| | | |
|-----------------------|-----------|------|
| I. 質疑応答 | フロアとパネリスト | 10分間 |
| II. フロアとの ディスカッション | フロアと全体 | 20分間 |
| III. 全体のまとめ | 中井 | 5分間 |

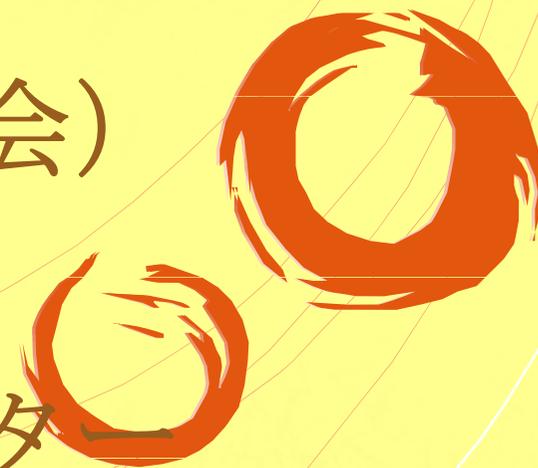
第1部

I. 本パネルの背景と目的

中井陽子（企画責任・司会）

東京外国語大学

留学生日本語教育センター



「会話データ分析」 (中井2012)

- 定義：

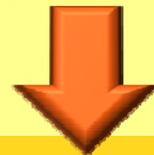
話し言葉のデータを扱った
様々な分析の総称



「会話データ分析」

- 有効性:

日常の会話や実践現場の会話をデータとして、録音・録画・文字化し、
その中で実際に何が起きているのかを
談話レベルで綿密に記述



実態を把握するのに
有効な研究手法

「会話データ分析」の変遷

1960年代

ことばの民族誌 (Hymes 1964, 1972)

談話分析(DA; 1960~, Halliday & Hasan 1976)

対照分析(1950-60)、社会言語学(Labov 1966)

語用論(Austin 1962, Searle 1965, Grice 1975)

1970年代

非言語行動の分析(Birdwhistell 1970)

会話分析 (CA; SSJ 1974)

ポライトネス理論(Brown&Levinson 1978)

1980年代

相互行為の社会言語学(Gumperz 1982, Tannen 1987)

教室談話分析(Coulthard 1985)

1990年代

批判的談話分析(1990~)

2000年代~

「会話データ分析」

- 分析データの範囲：
より広い言語と行動

社会文化行動

社会言語行動

言語行動

(ネウストプニー1995、中井2012)



「会話データ分析」

様々な社会的貢献
の可能性

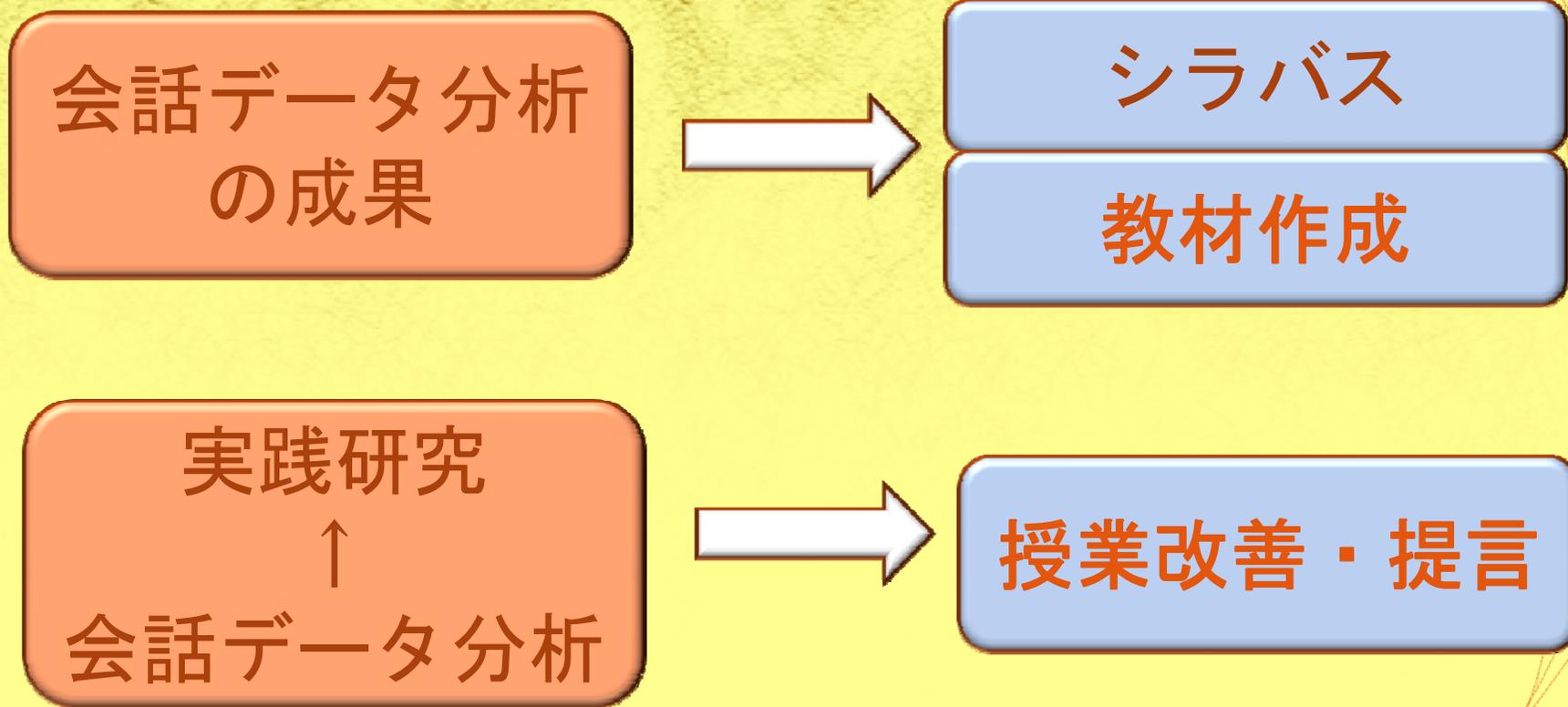


個々の
実践現場



より広い様々な実践現場

「会話データ分析」



日本語教育でのコースデザイン
のプロセスの中での活用



「会話データ分析」

会話データ分析
の成果

実践研究



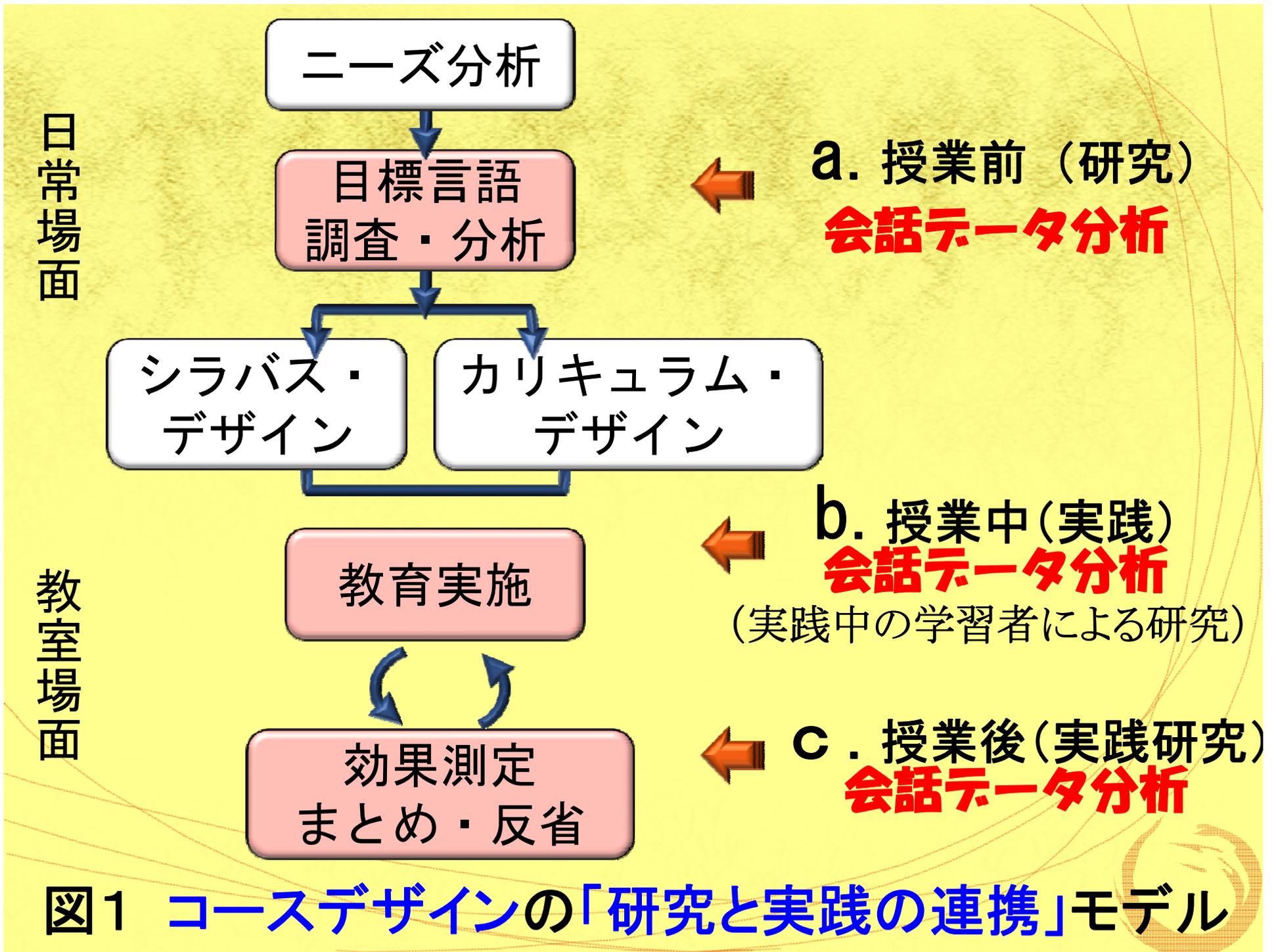
会話データ分析

シラバス
**実践現場
での活用**
授業改善・提言

社会的貢献

「会話データ分析」 「教授法」の変遷

| | | |
|---------|----------------------------------|---|
| | | 文法訳読法(18c-) |
| | | 直接法(1880-) |
| | | オーディオリンガル(1945-) |
| 1960年代 | ことばの民族誌 談話分析 対照分析、社会言語学 | サイレントウェイ(1963-) TPR(1965-) |
| 1970年代 | 語用論 非言語行動の分析 会話分析 | CLL(1972-) サジェストペディア(1978-) |
| 1980年代 | ポライトネス理論 相互行為の社会言語学 教室談話分析 | ナチュラル・アプローチ(1983-) コミュニカティブ・アプローチ (1972-) |
| 1990年代 | 批判的談話分析 | |
| 2000年代～ | | 自律学習, 協働学習 |



日常場面

ニーズ分析

目標言語
調査・分析

シラバス
デザイン

カリキュラム
デザイン

教育実施

効果測定
まとめ・反省

教室場面

a. 授業前（研究）
会話データ分析

日常場面の会話データ
分析を教師が行い、
シラバス／カリキュラ
ムに活かす

（研究論文⇒教育実践への活用）



日常場面

ニーズ分析

目標言語
調査・分析

シラバス
デザイン

カリキュラム
デザイン

教育実施

効果測定
まとめ・反省

教室場面

b. 授業中（実践）
会話データ分析

授業で学習者自身が
会話データ分析活動で、
メタ認知力を高める

（実践中の学習者による研究）

日常場面

ニーズ分析

目標言語
調査・分析

シラバス
デザイン

カリキュラム
デザイン

教育実施

教室場面

効果測定
まとめ・反省

C. 授業後（実践研究） 会話データ分析

教室場面での学習者の
会話を教師が分析し、
授業効果を測る

（実践研究論文⇒教育実践の改善）

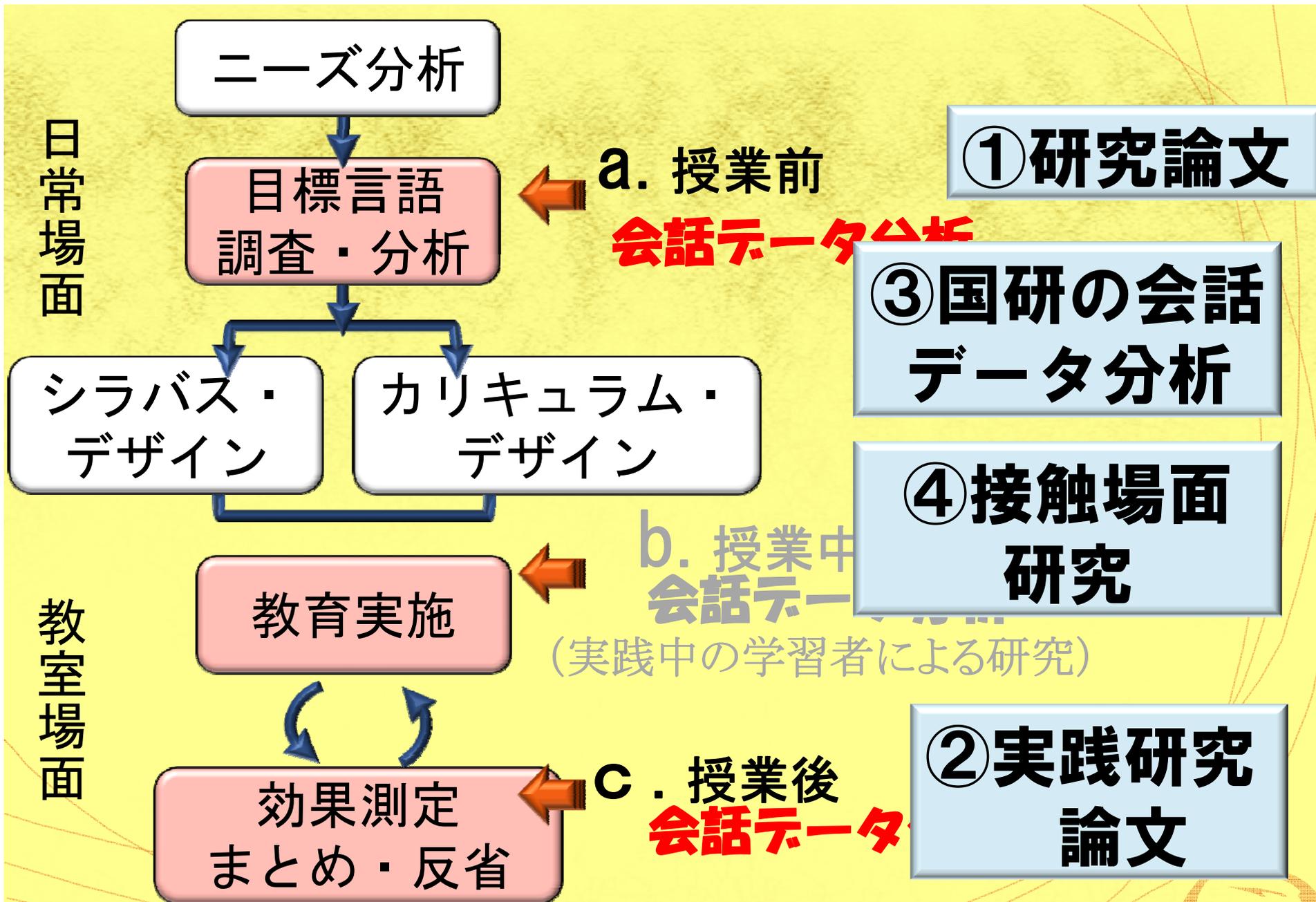


図1 コースデザインの「研究と実践の連携」モデル

フロアとのディスカッション

- (1) 会話データ分析をいかに具体的に日本語教育の「個々の実践現場」や「多様な実践現場」に活かしていけるか
- (2) 研究を実践に繋げ、社会に貢献していく「研究と実践の連携」はいかに実現するか

本パネルでの議論を通して～

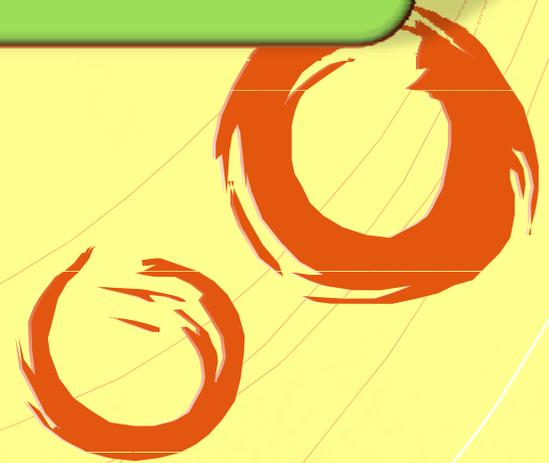
今後、いかに
会話データ分析を
実践現場に役立てるべきかを
パネル参加者一人一人の
問題として問い直す場とする

本パネルでの議論を通して～



社会的に意義のある
「研究」と
それを活かした
「実践」を行う
「研究と実践の連携」を
より促進させる機会としたい

II. 会話データ分析の 調査報告



II. 会話データ分析の調査報告

調査報告①（研究論文）

大場氏：学会誌『日本語教育』の分析

調査報告②（実践研究論文）

寅丸氏：学会誌『日本語教育』の分析

調査報告③（国研の会話データ分析）

熊谷氏：『話しことばの文型(1):対話資料による研究』

『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』

調査報告④（接触場面研究）

宮崎氏：豪州モナッシュ大学関連研究者の
研究論文・実践研究論文



「会話データ分析」

「教授法」の変遷

① 研究論文

文法訳読
直接法(1)

② 実践研究論文

1960年代

ことばの民族誌
談話分析
対照分析、社会言語学

③ 国研の会話データ分析

ンガル(1945-)
エイ(1963-)

語用論

1970年代

非言語行動の分析
会話分析

④ 接触場面研究

ポライトネス理論

ランエストヘディア(1978-)

1980年代

相互行為の社会言語学
教室談話分析

ナチュラル・アプローチ(1983-)

1990年代

批判的談話分析

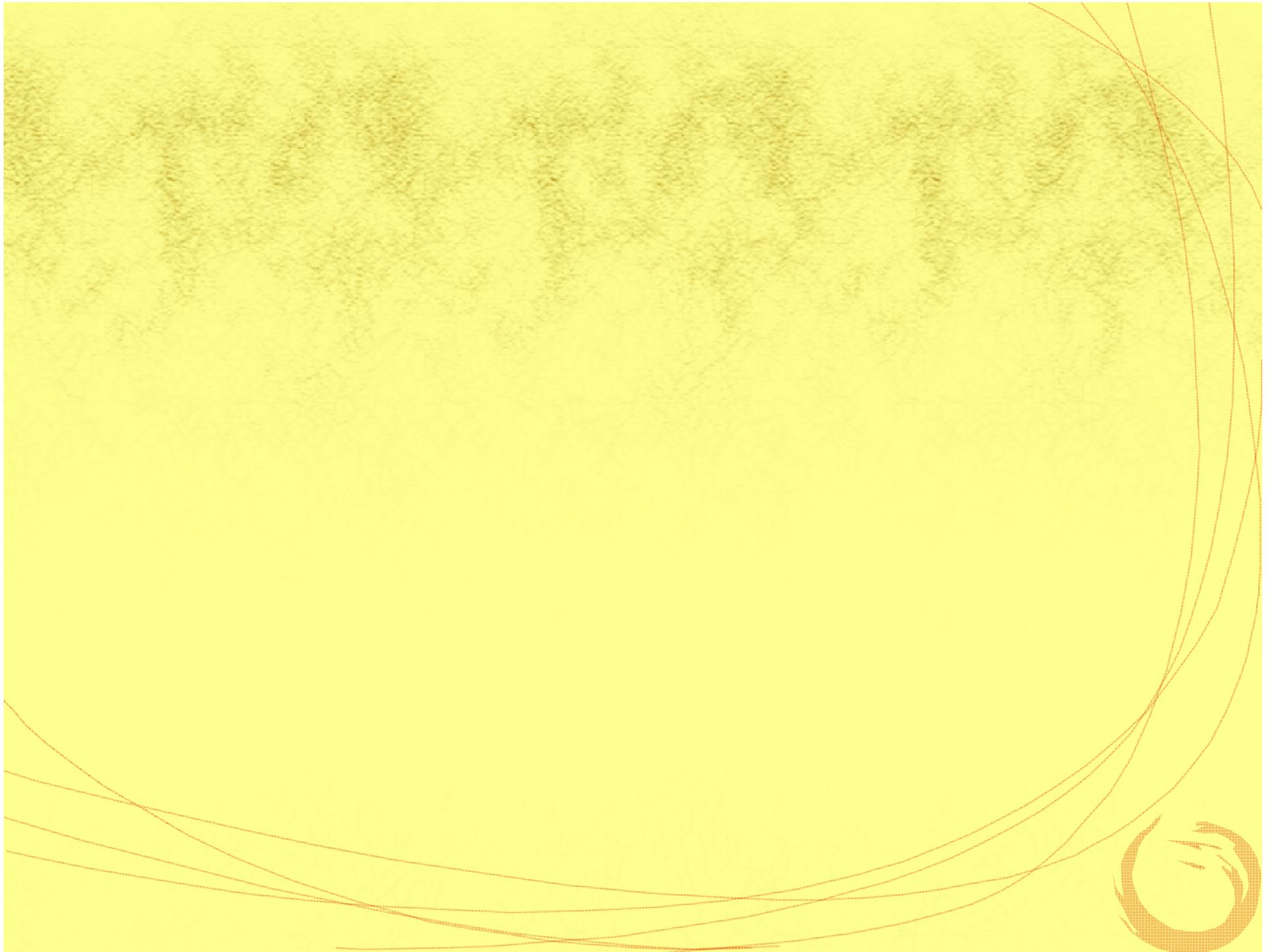
コミュニカティブ・アプローチ
(1972-)

2000年代～

自律学習, 協働学習

II. 会話データ分析の調査報告





| 会話データ分析 | 種類 | 分析項目 | 実践現場への活用の例 |
|--|---|--|---|
| 調査報告① (大場氏) 『日本語教育』 研究論文 | メディア、 自然談話、 実験、コー パスなど | 接続詞、文末表現、 応答詞、待遇行動、 あいづち、聞き返 し、指示詞など | カリキュラム、シラバス、教材 開発、指導方法の提案、理念的 な提案など |
| 調査報告② (寅丸氏) 『日本語教育』 実践研究論文 | 教室活動中 の会話、寸 劇、ロールプレイ、 フィールドトリップ など | 教授法での学習者 のやりとり、談話 構成、ストラテジー習得、 思考過程、人間関 係構築過程など | 教授法の効果検証・普及、授業 改善、コミュニケーション能力や学習ストラ テジーの測定、教材教具の検討、実 践研究の手法の提案、実践の可 視化、社会的問題の指摘など |
| 調査報告③ (熊谷氏) 国研の研究 | 言語生活の 行動、調査 質問への回 答(大規模 調査)、デー タベース、コーパ スなど | 言いさし、くり返 し、省略、構文、 語彙、イントネーション、 発話機能、発話の うけつぎ、身振 り・動作、言語行 動遂行イメージなど | 総合文型表、機能一覧表、日本 語教育用ビデオの関連教材、発 話インデックス、看護師研修生 の聴解用素材(方言会話デー タ)など |
| 調査報告④ (宮崎氏) 接触場面研究 | 自然場面系 教室場面系 実験場面系 | 接触場面の実態、イ ンターアクションの問題、イ ンプット、ネットワークストラ テジー、発話の頻度・ 質、フォロートークなど | 日本語教育のための基盤作り、 シラバス作成、自律学習の支援、 留学支援システム、授業改善、 ストラテジー指導、評価、教材 作成、接触場面の機会作りなど |

休憩



質問用紙をご提出ください！

第2部

I. 質疑応答

II.フロアとの ディスカッション



各パネリストからの投げかけ

大場氏：

- 研究成果を個別に現場で活用するだけでなく、日本語教育全体の中で見直しては？
- 異なる分野の提言の可能性は？

寅丸氏：今後ますます多様化と社会化が進む中、自身のコミュニケーション観や実践研究の目的にふさわしい会話データ分析とは？

熊谷氏：「想定外の応用」はどう実現するか？

宮崎氏：

- これまでの研究成果をさらに活かす方法は？
- それぞれの地域や現場のニーズに合った接触場面研究は？

フロアとのディスカッション

- (1) 会話データ分析をいかに具体的に日本語教育の「個々の実践現場」や「多様な実践現場」に活かしていけるか
- (2) 研究を実践に繋げ、社会に貢献していく「研究と実践の連携」はいかに実現するか

III.全体のまとめ



【参考文献】

大場美和子・中井陽子・寅丸真澄(2011)「会話・談話分析の手法を用いた研究論文の社会的意義の考察－学会誌『日本語教育』掲載論文の分析をもとに－」『2011年度日本語教育学会研究集会第10回中国地区(広島)予稿集』, pp.51-56

国立国語研究所(1960)『国立国語研究所報告18 話しことばの文型(1):対話資料による研究』, 秀英出版

国立国語研究所(2001-2008)『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』, 国書刊行会

寅丸真澄・中井陽子・大場美和子(2012)「実践研究における会話・談話分析の意義と社会的貢献の可能性－『日本語教育』掲載の実践研究論文の分析をもとに－」『2012年度日本語教育学会実践研究フォーラム予稿集』, 日本語教育学会(2012年7月発表予定)

中井陽子(2012)『インターアクション能力を育てる日本語の会話教育』, ひつじ書房

中井陽子・大場美和子・寅丸真澄(2011)「会話・談話分析の社会的意義の考察－掲載論文の分析をもとに－」修剛・李運博(主编)『跨文化交际中的日语教育研究② 異文化コミュニケーションのための日本語教育』, pp.628-629高等教育出版社

中井陽子・大場美和子・寅丸真澄・加藤好崇・三牧陽子(2012)「会話データ分析のむこう－社会的貢献の可能性を考える－」『社会言語科学会第29回大会論文集』, pp.202-211

ネウストプニー, J.V.(1995)『新しい日本語教育のために』, 大修館書店

本日のパネル資料
ダウンロードHP

[http://www.tufts.ac.jp
/ts/personal/ynakai/
index.htm](http://www.tufts.ac.jp/ts/personal/ynakai/index.htm)

